

教材教具から見る幼児教室

未来こども工房合同会社(京都府)は、長年培ってきた幼児教育のノウハウを最大限活かし、より良い幼児教育の選択肢の一つとして広く提供していくべく、2018年末に設立された。今回はその教材を導入している幼児教室の中でも、長年に渡って幼児教育に携わっている豊中少路教室における取り組みから、幼児教育における教材教具が持つ意味とは何かを、同教室長の立野彩氏のお話から探ってみよう。

M 未来こども工房



立野彩教室長

幼児教室の今

幼児教室は、これまで小学校受験を目指す子供たちのためのものというイメージが強かったが、今、少しずつ変化してきている。

「今はお稽古感覚で来ていただいていると思います。間口が広がったと言いますか、小さな頃から手をかけてあげるという考え方が広がったように思いますね」と、豊中少路教室教室長の立野彩氏は言う。

同教室の基本コースは、

週1回50分の授業があり、0歳から小学6年生の子供たちが通う。その教材教具は、オリジナルのもので、クラスごとに毎月違うものが用いられる。

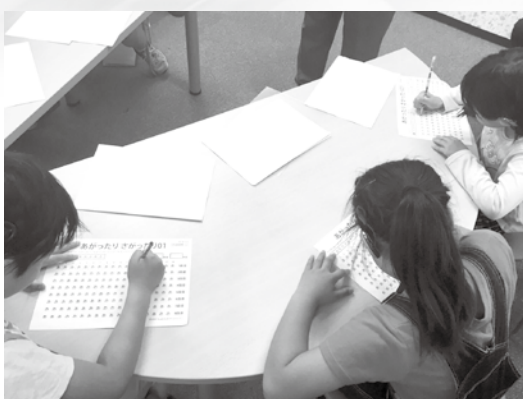
この教材教具は、キャンオン・マインドグループの学習塾で中学生時につまずいた生徒が多かったことから、幼児期の学習を研究し、開発されたものだ。少し先を見据えた教材教具を用いることで、子供の興味、関心を開発しながら、将来必要な知識を具体的に学んでいく。

その上で、受験にも対応できるように設計されている。例えば、未来こども工房の教材は、年齢や学年に関係のない100の決まったワードが書かれた『共通カード』を用意し、これとは別に、小学生のコースでは、中学受験に出てくる歴史人物60人を年代別に並べた

カードがあるのだが、この共通カードと紐づけて歴史上の人物を学ぶ。

独自開発の教材教具

この共通カードの1番は「お椀」。そして、歴史カードの1番は「聖徳太子」だ。ここからお椀を被った聖徳太子をイメージして記憶していく。そして、聖徳太子にまつわるキーワードを覚えるために、「聖徳太子は銃を放り投げたら囃んじやっ」という文を作る。「銃(=傍点)は(=十(=傍点)七条憲法)、『放(=傍点)り投げたら』は『法(=傍点)隆寺』、『囃ん(=傍点)じやっ』は、『冠(=傍点)位十二階』といったように、3つのキーワードを一つのイメージで記憶するように設計されている。



一人一人に合わせた教材教具を提供している

したい。このビジョントレーニングは、処理能力の向上や集中力を身につけることを根底に作られたものだが、毎月内容が変わる『できたねDVD』という教材が用いられている。例えば、DVDの映像を用いた眼球運動。顔を動かさずに目だけの運動をしたあと、目を閉じて、どんなふうに動いたのかを思い出しながら顔の中で動かすことで視野を広げる。あるいは、4つの球を視界に入れて、目を動かさずに、文字を読んでもいくものなどもある。いずれも能力開発を視野に入れたものだ。

発達障害児へのソリューションとしても

未来こども工房の教材教具は、発達障害児の学習も念頭に置かれて開発されている。豊中少路教室では、その教材教具を使い1対1の

オーダーメイドプログラムを提供している。「そのため、一人一人にあったプログラムを提供でき、能力を伸ばしやすく、関係も築きやすいです。形で覚える都道府県などはデジタルがありますし、歌を歌いながら学べるので取っ掛かりがいいですね」と、立野氏は述べる。

あげるものや、どのような才能が眠っているかを探るものがあり、ゴールがないんです。私たちは教材教具をうまく活用することで、特別な受験対策をせずに、心を育てる、才能を伸ばしてあげる教室を作っています」

幼児教育における教材教具は、塾とはまた違った意味を持つ。

パソコンを使った『形で覚える都道府県』には、音や日本地図に都道府県の形を当てはめるゲームなどが備わっている。都道府県の形だけで覚えてしまうと、全部同じ大きさに見えてしまうが、日本地図を軸にすることで大きさが比較できるように工夫されている。

また、未来こども工房の独自プログラムである『ビジョントレーニング』も紹介

この『できたねDVD』に出てきたワードは、速読のレッスンなどにも使われ、読



子供の特性を生かすことを考えて開発された歴史人物を暗記する教材

